

清川泰次のアトリエ I

2012年4月3日(火)～7月29日(日)



《白の中のパールグリーン》(『群像』1963年3月号表紙絵)1962年

世田谷美術館分館

清川泰次 記念ギャラリー

〒157-0066 東京都世田谷区成城2-22-17 TEL:03-3416-1202
www.kiyokawataiji-annex.jp

開館時間=午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

休館日=毎週月曜日(ただし、祝・休日の場合は開館、翌日休館)

観覧料=一般200(160)円、大高生150(120)円、中小生100(80)円、65歳以上及び障害者の方100(80)円

* ()内は20名以上の団体料金。小・中学生は土、日、祝・休日及び夏休み期間は無料。

* 障害者で小・中・高・大学生、および障害者の介護者(当該障害者1名につき、1名に限る)は無料。

交通案内=小田急線「成城学園前」駅南口から徒歩3分

清川泰次のアトリエ I

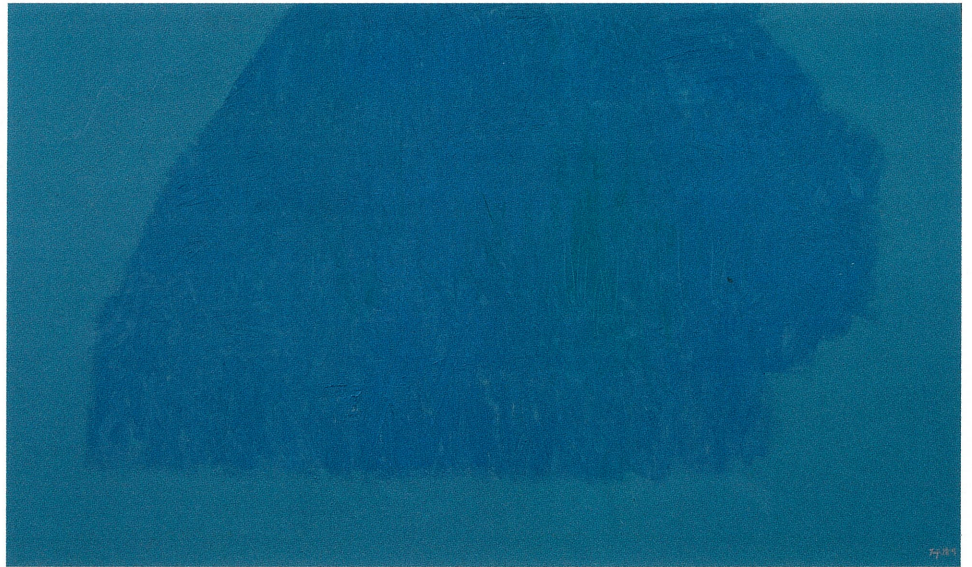
2012年4月3日(火)～7月29日(日)

独自の抽象的な表現を探究した清川泰次(1919-2000)は、様々な絵画上での実験を行ってきました。1950年代後半から1960年代の作品に見られる色についての探求もそのひとつといえるでしょう。一見、同じ色に見える画面も、目を凝らすと筆のタッチや、下地の色の違いなどで様々な変化を見せます。1962年と1963年の2年間に出版された雑誌『群像』(講談社)の表紙は、この頃の清川泰次の作品が使われています。本展では、こうした色の表情を探究した清川泰次の作品を中心に約15点を展示します。

一つの色の中に
一つの色が置かれる……

白の中に白
ブルーの中にブルー
白の中にグレー
グレーの中にブルー
色と色との微妙なハーモニーが
色と色の無限の組合せが
構図でない構図を
次々と展開して
今だかつて無い
新しい美を
創って行く……

清川泰次「一つの色の中に」



《ザ・セルリアンブルー 100M-11-63》1962-63年



《紫のある風景》1960年代頃



《コラルレッドの3号-67》1962-67年

世田谷美術館分館

清川泰次 記念ギャラリー

〒157-0066 東京都世田谷区成城2-22-17 TEL:03-3416-1202
www.kiyokawataiji-annex.jp/

交通=小田急線「成城学園前」駅南口から徒歩3分



世田谷美術館の分館、清川泰次記念ギャラリーは成城の閑静な住宅街にあります。温かみのあるモダンな建築の前には芝生が広がり、四季折々の草花が咲きます。当館は、清川泰次のアトリエ兼住居だった個人宅を一部改装したもので、規模は大きくありませんが、落ち着いた雰囲気の中で作品をご鑑賞いただけます。

併設された区民ギャラリーは、区民の方々の創作活動の発表の場として、週単位で、様々な展示が開催されています。(展示予定はホームページをご覧ください)

清川泰次の作品を展示している小展示室では、お茶を飲みながらゆっくりと関連図書などをご覧いただけます。



©宮本和義

世田谷美術館

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2

TEL:03-3415-6011(代)

ハローダイヤル 03-5777-8600

www.setagayaartmuseum.or.jp/

*詳細はホームページなどでご確認ください。

予告

リオープン記念展

福原コレクション

駒井哲郎1920-1976

4月28日(土)～7月1日(日)

ミュージアム コレクション I

世田谷アーティスト・コロニー

「白と黒の会」の仲間たち

3月31日(土)～6月17日(日)

向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1

TEL:03-5450-9581 www.mukaijunkichi-annex.jp/

向井潤吉 陸奥への旅

4月3日(火)～7月29日(日)



©宮本和義

宮本三郎記念美術館

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13

TEL:03-5483-3836 www.miyamotosaburo-annex.jp/

同時代の二人—向井潤吉と宮本三郎

4月3日(火)～7月29日(日)



©宮本和義